

📖 今月のおすすめ本 📖

『離れていても家族』

著者名 品田 知美、水無田 気流、野田 潤、高橋 幸
出版者 亜紀書房
出版年 2023
分類番号 367.3/八



現代の日本は、低い出生率と世界一進んだ高齢化、根強いジェンダー差別の残る社会であるとされ、この本ではそのような中での家族の在り方について日本とイギリスを比較して検討します。共食し、毎日家族全員が夕食時に顔を合わせ共に過ごすことが通常とされているイギリスに比べ日本では夕食時に家族全員が揃わない事も多いです。日本は「ふだん離散して過ごしていても時折集合すればよい関係、これが日本の家族なのである」と述べています。現代日本の都市空間では、子どもは夕方から塾・夜まで子供の心配をせず安心して残業しているフルタイムの父母、とという光景も珍しくありません。これは塾や残業など、みんなと一緒に家族で過ごすよりも意味があると信じている活動をしに 構成員がそれぞれ外に出かけるという いわゆる「離散型家族」で、離れていてもお互いに家族らしく感じられるのが日本の家族の姿だ としています。

この様に本書では 社会学者たちが日本の家族を多角的に掘り下げて述べられていて、私たち日本人になんとか刷り込まれている様々な価値観について再認識させられて興味深いです。

📖 日本の家族について

『日本型近代家族—どこから来てどこへ行くのか』【361.6/㍿】

千田 有紀(2011)勁草書房

『カタリン・カリコ—mRNAワクチンを生んだ科学者』

著者名 増田 コリヤ
出版者 ポプラ社
出版年 2023
分類番号 289.3/マ

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが始まった当初、そのワクチンの開発に2~3年はかかるとみられていました。それがわずか1年足らずでワクチンが開発されました。これにはハンガリー人の女性研究者 カタリン・カリコの研究していた mRNA(メッセンジャーRNA)が利用されました。

mRNAは、ヒトの体内に無数にある細胞の中で、タンパク質をつくりだすための遺伝子情報を伝える役割を担っている物質で、さまざまな病気の治療にも役立つとされています。この研究により、2023年に、カタリン・カリコはノーベル生理学・医学賞を受賞しています。

この本は、カタリンが学生の頃 何がきっかけで研究者になりどの様な努力をしてきたか、研究する国の選択や新天地アメリカの大学での研究の苦労や、それをどう乗り越えてきたか書かれています。信念を捨てず自分の研究を続けてきたカタリンの様々なエピソードが満載で、分かりやすく書かれている児童向けフィクションです。

☐ 女性の科学者など、だれがいるかな？

『世界を驚かせた女性の物語 2 偉大な発見と発明!女性科学者&エンジニアたち』

【280/ア】ジョージア・アムソン-ブラッドショー(2020)旬報社

『マリー・キュリー ノーベル賞を二回受賞した女性科学者 <学習まんが>』

【908.9/キ】 吉祥 瑞枝/監修(2016)集英社

『最後まで在宅おひとりさまで機嫌良く』

著者名 上野千鶴子
出版者 中央公論新社
出版年 2022
分類番号 367.7/ウ

日本のジェンダー研究のパイオニアであり、高齢社会と介護についても研究している作者が、2012～21年に行った10人の女性との対談を1冊にまとめたものです。超高齢化社会をむかえさらにここ数年は新型コロナウイルスの影響による格差の拡大、介護従事者の負担増などの問題も顕在化しています。これらを踏まえつつ、「自分なりの生き方を貫いている点」が共通している当時50から90代までの「おひとりさま」のロールモデルになるような方々10人と、在宅でのおひとりさまの生き方について語り合っています。終章では「滞りなくひとり死を実現するために具体的にどういう準備をしたらいいのか」、そのノウハウも分かりやすく書かれています。

30～40代で遺品整理の見積もりを依頼する女性がいるという昨今、自分の老後を考える上でも、高齢者や高齢者を取り巻く環境を知っておく必要があるでしょう。いきなり専門書を読むのはちょっと…という方にも対談集なら読みやすいはず。ぜひ手に取ってみてください。

📖 家族も考えると…

『親の入院・介護が必要になったときに読む本 保険・医療費から在宅介護・施設選びまで』 【369.2/ト】 豊田 眞弓／編著(2010)日本実業出版社